



Title	職場・業務紹介 附属植物園
Author(s)	林, 忠一
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 61-61
Issue Date	1994-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35275
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_p61.pdf



林 忠一（展示温室・冷温室・花壇担当）

◆職場紹介

昭和55年に庭園部門として採用され、60年に現在の温室部門に移りました。当温室には冷温室があり高山植物を中心に庭園係で管理していましたが、大阪市より「花と緑の博覧会」のための委託研究を契機に温室部門で担当することになりました。

私の担当は展示温室と花壇の管理が中心ですが、近年は植物園年報編集の他、植物登録管理システムの構築・運営も行っています。

◆仕事内容

基本的には、灌水、施肥、病虫害防除、植え替えなど生植物資料の栽培保存維持管理を行っています。特にクラーク博士ゆかりのオオオニバスの栽培を行っており、通常は冬季間に衰弱して枯れてしまうのですが、通年開花栽培を目指して実験栽培中です。

またサクラソウ属を中心に外国産植物の遺伝子収集を行っており、これらを利用し冬季間も高山植物の展示栽培を行う予定です。現在12カ国24カ所の植物園から約130種のサクラソウを導入栽培していますが、間違った植物名で送られて来る事があるので、植物名を正確に調べる同定作業が必要で、これが大変な仕事になっています。

花壇やプランターに、年2～3回花壇苗を植えて環境整備に努めています。これらの苗は播種から育苗まで自家生産しています。

61年より技官を中心として植物園の業務報告的内容の年報を発行していて、技官・教官・事務官からの原稿をパソコンで入力編集しています。

植物園では独自にカードによる導入植物のパスポートデータの登録管理を行ってきましたが、東大を中心とした国立大学の附属植物園でコンピューターによるデーター化事業が始まった事を機に、当植物園用登録様式を構築しデータの電算化を進めていて、現在植物登録管理チームを発足し担当係としてデータ管理も行っています。こうしたデータはいわば植物の戸籍簿であり、遺伝子資源としての価値に大きく影響しています。

◆施設、設備、面積等

冷温室	60㎡	熱帯植物室	252㎡	ビニールハウス	81㎡	花壇	90㎡
シダ室	60㎡	多肉植物室	84㎡	ナーセリー	65㎡		

◆悩みや困っていること

温室の設計が植物の栽培管理用ではなく、通常の建築基準にあわせているため、栽培管理がしづらいです。片屋根式の温室のため栽培空間が、展示室では特に高所が有効利用できず、育成温室では無駄になっています。また近隣ビルの高層化による日照障害の影響が懸念されます。

温室職員は完全に分業体制となっていて、共同作業を必要とする計画が立てづらいことと、温室専属の非常勤職員がいないので雑事が多いです。

◆今後の方向または希望

北大の中の農学部附属施設として、専門教育への対応と、公開上市民への啓蒙教育、生涯学習、行政サービスなどを含め植物園または温室の在り方を徹底的に見直す必要があります。その上で方向性を考えていきたいと思います。

現段階では熱帯果樹を中心にした有用植物の展示栽培と、植物の多様性の理解に役立つ展示栽培を心がけていきたいと思います。